

# 蟹と水仙の文学コンクール 入賞者 大賞作品

## 俳句部門（小学生の部）

### 大賞

清水南小学校 六年 堀部 航平

「水仙花 部屋に香水  
まいたよな」

### 奨励賞

萩野小学校 二年 小 塙 茜  
鷹巣小学校 四年 笹原 朋子

### 佳作

京都市立大塚小学校 六年 小 多 翔 士  
織田小学校 二年 川 端 礼 美  
城崎小学校 三年 中 橋 佑 太  
四ヶ浦小学校 三年 中 野 心 惇  
城崎小学校 五年 倉 谷 勇 人

## 俳句部門（中学生の部）

### 大賞

鯖江中学校 三年 佐々木 郁 哉

「水仙を たばね続ける  
祖父のせな」

### 奨励賞

武生第三中学校 一年 山 口 梨 絵  
武生第一中学校 二年 佐々木 真 紘

### 佳作

川越市立福原中学校 二年 永 田 萌  
川越市立福原中学校 二年 森 田 陽 彦  
朝日中学校 一年 三 好 麻 衣  
福岡市立当仁中学校 二年 今 村 幸 輝  
朝日中学校 二年 五 島 大 樹

## 俳句部門（高校生の部）

### 大賞

大阪府関西大倉高等学校 二年 昌 原 杏 子

「ずわい蟹 送る父待つ  
赴任地へ」

### 奨励賞

仁愛女子高等学校 三年 多 田 真 弓  
仁愛女子高等学校 三年 高 橋 直 佳

### 佳作

仁愛女子高等学校 三年 白 崎 つばさ  
仁愛女子高等学校 二年 斎 藤 真由香  
丹生高等学校 一年 青 柳 早 織  
丹生高等学校 二年 小 林 葉 月  
丹生高等学校 二年 上 坂 武 士



## 俳句部門（一般の部）

### 大賞

福井県敦賀市 坂 下 哲

「花言葉 添へて水仙  
届きけり」

### 奨励賞

愛知県名古屋市長 小 沢 芳 治  
岐阜県大垣市 大 井 公 夫

### 佳作

石川県輪島市 中 津 正 克  
福井県坂井市 五十 風 道 夫  
東京都練馬区 浅 見 三 郎  
福井県越前市 蓑 輪 すゞ子  
神奈川県横浜市 竹 澤 聡

## 詩部門（小学生の部）

### 大賞

四ヶ浦小学校 三年 富 田 光 星

「水せんと音楽」  
ぼくがスキップ  
きみがちよつとゆれる  
風がきみに合わせて  
やさしくふいたよ

ぼくが高くスキップ

きみはうれしそうに  
友達にもよびかけたよ

風がリズムをとって  
ぼくのほほに  
話しかけてきたよ

ぼくが歌いながらスキップ  
きみと風が  
いつしよに合わせて  
ぼくに  
たくさん音ぶをはこんでくれたよ

二人で音楽の時間だね  
今度はどんな曲にしようかな

### 奨励賞

朝日小学校 四年 倉 内 心 愛  
四ヶ浦小学校 三年 堀 竜 矢

### 佳作

東京都百台学園小学校 三年 安 藤 円 樺  
織田小学校 五年 森 崎 智 哉  
東京都百台学園小学校 五年 安 藤 瑞 希  
四ヶ浦小学校 五年 嘉 奈 宏 造  
織田小学校 六年 上 坂 唯 香

## 詩部門（中学生の部）

### 大賞

越前中学校 三年 中 野 斗 夢

「戦場の父」  
一月六日 夜

日本海は戦場と化した  
良い漁場を狙おうと船ははしった  
午前一二時、船のあかりを  
こうこうともし、全速力で船をとばす  
明け方 父の船は漁場についた  
さっそく海へと網がうたれた  
何十分後に網は上がってきた  
みんな思った

「頼む、大漁であつてくれ」  
父と乗りくみ員は満面の笑みを浮かべた  
その瞳には赤々としたかにかがうつっていた  
大漁だ  
しかし全せきがそうではない  
少ししかとれない船もある  
昼ごろ父の船は帰港する  
赤々と輝くかにはまだ生きている  
そしてかには陸へとあげられた  
父はまた戦場へと向かった

そのころ町は白煙がたちこめていた  
かにをゆでていた  
ゆだったかにはいちだんと赤々していた  
町人はみんな笑顔だ  
すぐに人を笑顔にする父を見てはくは  
とてもほこらしかった

### 奨励賞

越前中学校 三年 藤 沢 佑 大  
越前中学校 三年 岩 崎 未 歩

### 佳作

越前中学校 三年 吉 田 秀 矢  
武生第三中学校 一年 山 口 梨 絵  
織田中学校 一年 笠 原 菜々子  
越前中学校 二年 久 保 涼 海  
越前中学校 三年 平 田 亘 輝

## 詩部門（高校生の部）

### 大賞

仁愛女子高等学校 一年 酒 井 美 帆

「独り」  
波の音 花のかおり  
誘われるように  
導かれるように 進むと  
風が広がる場所にいた  
一面の水仙が  
うなづき合うように  
風にゆれていた  
爽し気にゆれている水仙たちの中  
独り 空を見つめる水仙が  
咲いていた  
顔を上げたまま  
強い風にも負けずに  
戦う女神のように  
私も同じように空を見つめた  
すると 自分の中の  
弱々しい くよくよとした  
情けない感情の塊が

花のかおりに  
ほどけるように  
消えていった  
塞がれていた空間に  
陽だまりのような  
あたたかいものが  
湧き出していた

## 詩部門（一般の部）

### 大賞

福井県越前市 神 坂 信

「箱膳とせいこ蟹」  
水屋の戸棚を開けると  
柿渋を塗り重ね  
幾年も使い込まれて  
漆のような光沢を放つ  
亡き祖父の箱膳が  
家長としての誇りのように  
今も、置かれてある

「お呼ばれ」があると  
自ら轆轤で引いた  
揃いの腕の入った箱膳を  
風呂敷に包み  
紋付羽織の背筋の伸びた祖父の

## 詩部門（小学生の部）

### 大賞

出掛ける後姿を  
今も蘇る

少し酔った足取りで  
風呂敷の箱膳からはみ出した  
せいこ蟹の足を  
ぶらぶらと揺らしながら  
帰って来る祖父を  
囲爐裏の槽火明りの中で  
わくわくしながら待った

「食べ終わったら蟹殻は  
灰甕に蓄え  
肥やしにしろよ」  
祖父の声が炉煙の向うから  
聞えそうだ

水屋の戸棚を開けると  
箱膳が、今も家長のように  
祖父の後姿が  
そこにある



### 奨励賞

静岡県富士宮市 中 島 真 悠 子  
大阪府豊中市 大 西 久 代  
福井県坂井市 半 田 信 和

### 佳作

福井県福井市 木 内 利 栄  
滋賀県竜王町 松 浦 弘 美  
奈良県香芝市 林 俊 雄  
京都府京都市 森 悠 紀  
京都府京都市 山 本 和 美